

2. 保育実習指導Ⅰ（施設）・保育実習指導Ⅲについて

(1) 保育実習事後指導における各授業方法の実施割合

保育実習施設Ⅰ（施設）を実施しているのは36校であり、保育実習指導Ⅲを実施しているのは回答のあった養成校のうち約半数の18校であった。実施している養成校数（表2-1-1、表2-1-2）をもとに、割合を算出した（図2-1）。

講義型指導（63.9%）、イベント型実習報告会（77.8%）、記録介在型指導（77.8%）、グループワーク型指導（38.9%）については、保育実習Ⅰ（施設）後の方が保育実習Ⅲ後より多かった。

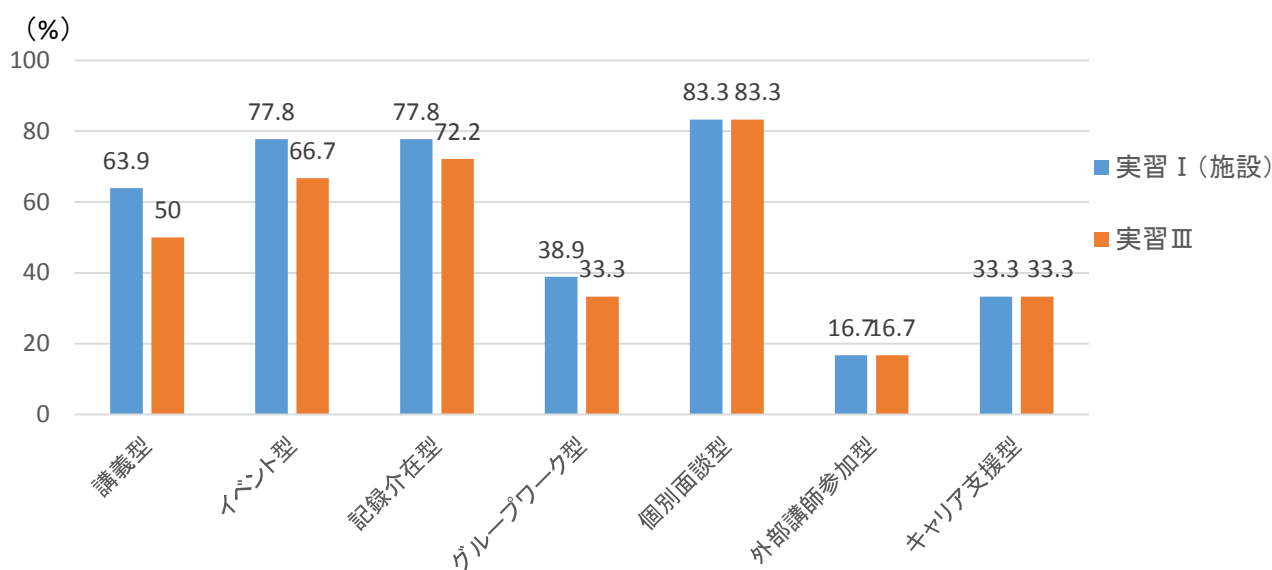


図2-1 各授業方法の実施割合（実習Ⅰ36校、実習Ⅲ18校）

表2-1-1 保育実習指導Ⅰ（施設）において各授業方法を実施している養成校数と割合

	講義型指導	イベント型	記録介在型	グループワーク型	個別面談型	外部講師参加型	キャリア支援型
養成校数	23	28	28	14	30	6	12
(%)	63.9	77.8	77.8	38.9	83.3	16.7	33.3

表2-2-2 保育実習Ⅲにおいて各授業方法を実施している養成校数と割合

	講義型指導	イベント型	記録介在型	グループワーク型	個別面談型	外部講師参加型	キャリア支援型
養成校数	9	12	13	6	15	3	6
(%)	50.0	66.7	72.2	33.3	83.3	16.7	33.3

(2) 各授業方法の実施時期

各授業方法を実施している養成校について、実施時期を「1週間未満」、「1週間以上1か月未満（以下、1か月未満）」、「1～3か月」、「4～6か月」、「7～9か月」「10～12か月以上」に分類して集計した。

(2) -1 保育実習指導 I における各授業方法の実施時期

保育実習指導 I は 36 校全てにおいて実施されていた。それぞれの授業方法を実施している養成校数をもとに、各実施時期の割合を算出した（図 2-2-1）。講義型指導の実施は、1か月未満（43.4%）が一番多く、次に、1週間未満（26.1%）及び1～3か月（26.0%）での実施が多かった。イベント型実習報告会の実施は、1か月未満（28.6%）での実施、1～3か月での実施の順に多かった。記録介在型指導の実施は、1か月未満（42.8%）が一番多く、次に1週間未満（25.0%）が多かった。グループワーク型指導の実施は、約5割の養成校において1か月未満（49.9%）で行われており、次いで、1週間未満、1～3か月、4～6か月がほぼ同じ割合であった。個別面談型指導の実施は、1か月未満（36.6%）、1～3か月（33.3%）の順に多かった。キャリア支援型指導は、4～6か月（33.4%）、1～3か月（24.9%）が多かった。

講義型指導、イベント型実習報告会、記録介在型指導、グループワーク型指導、個別面談型指導は、ほぼ同じ時期に多く実施されていることから、それぞれの指導が並行して行われている可能性があると考えられるのではないだろうか。

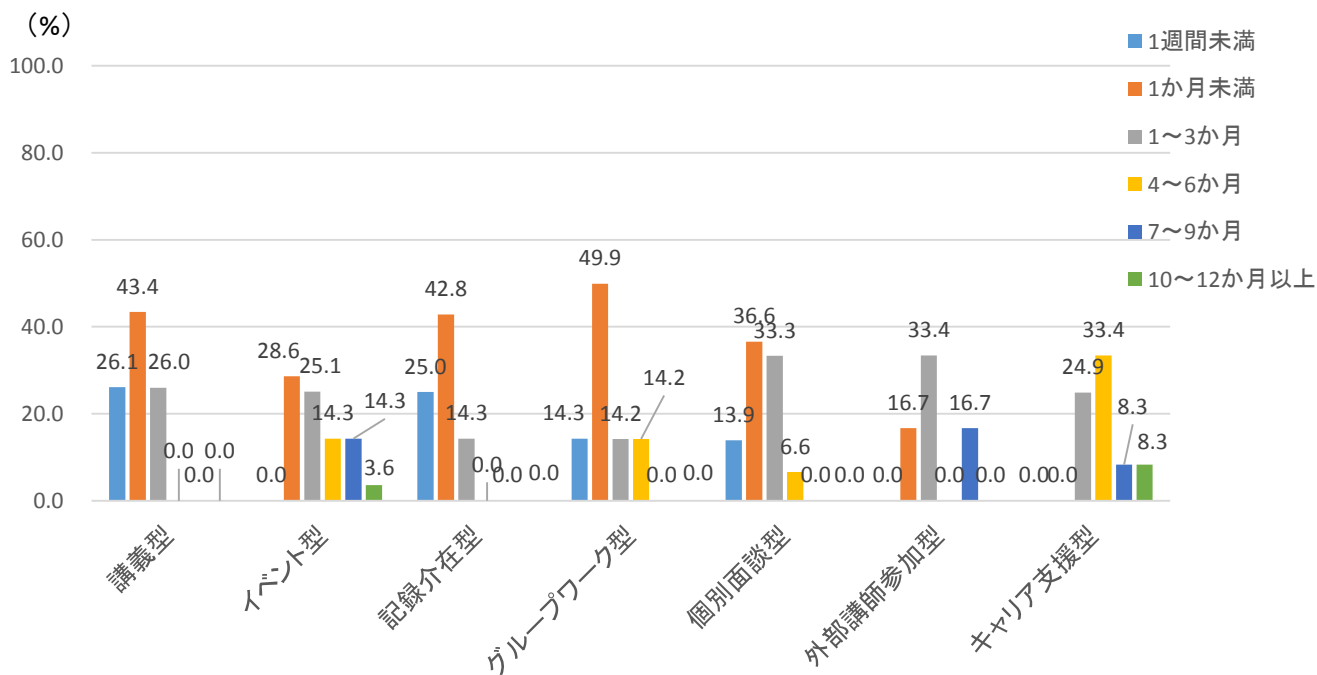


図2-2-1 実習 I (施設)事後指導における各授業方法の実施時期

(2) -2 保育実習指導Ⅲにおける各授業方法の実施時期

保育実習指導Ⅲは18校において実施されていた。それぞれの授業方法を実施している養成校数をもとに、各実施時期の割合を算出した(図2-2-2)。保育実習指導Ⅰ(施設)同様に講義型指導の実施は、1か月未満(55.6%)が、1~3か月(33.3%)の順に多かった。イベント型実習報告会の実施は、1~3か月(50.5%)が一番多く、次いで4~6か月(33.3%)が多かった。記録介在型指導の実施は、保育実習指導Ⅰと同様に1か月未満(38.5%)の実施が一番多く、次に1~3か月(23.1%)が多かった。グループワーク型指導は、1~3か月(50.0%)、4~6か月(16.7%)の順に多かった。グループワーク型指導の実施については、この2つの時期のみであった。個別面談型指導の実施は、1~3か月(46.7%)が多く、次いで1か月以内(40.0%)が多かった。外部講師型指導の実施は、1~3か月(33.3%)と4~6か月(33.3%)の時期のみであった。キャリア支援型指導の実施は、1~3か月(66.7%)と4~6か月(16.7%)の2つの時期のみであった。

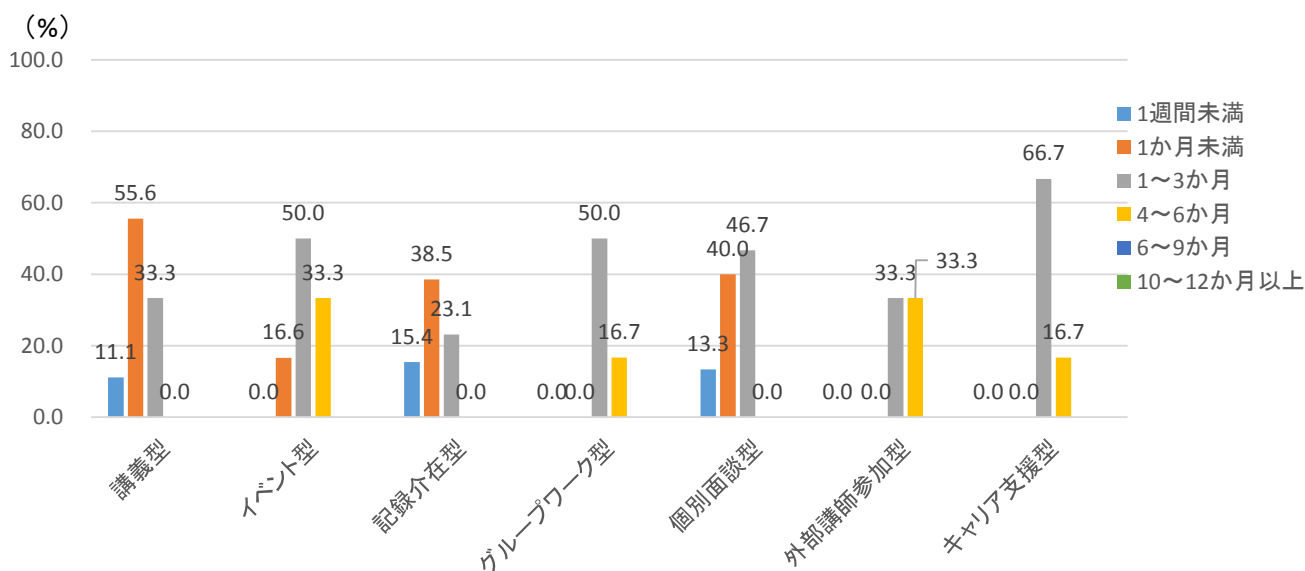


図2-2-2 保育実習Ⅲ事後指導におけ各授業方法の実施時期

(3) 各授業方法の実施内容と実施回数

各授業方法を実施している養成校について、各授業方法における実施内容を分類して集計した。

(3) -1 講義型指導の実施回数と実施内容

講義型指導を実施していたのは、保育実習指導Ⅰで23校(63.9%)、保育実習指導Ⅲで9校(50%)であった。実施回数を多かった順に3つまで挙げる。保育実習指導Ⅰでは、1回(43.5%)、2回(39.1%)、3回(8.7%)の順に多く、保育実習指導Ⅲでは2回(55.6%)、1回(33.3%)、10回(11.1%)の順に多かった。

講義型指導を実施している養成校について、その内容である「まとめ（総括）」、「全体評価」、「講義内での簡易報告会」、「その他」の割合を算出した（図 2-3-1）。「まとめ（総括）」の実施割合が、保育実習指導Ⅰ（82.6%）、保育実習指導Ⅲ（77.8%）の事後指導ともに高かった。保育実習Ⅲの事後指導においては、簡易報告会の実施について保育実習指導Ⅰ（34.8%）より保育実習指導Ⅲ（44.4%）の方が高い実施割合だった。

講義型指導は、1か月及び1～3か月以内に、実習を振り返って実習での体験をまとめる、全体評価をおこなう、学生の体験や経験に基づく簡易報告会などが行われているのではないだろうか。

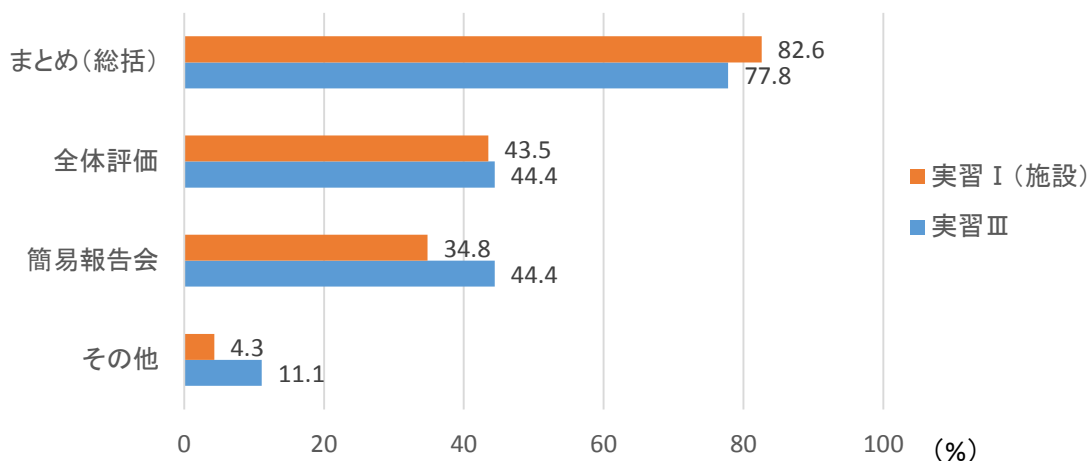


図2-3-1 講義型指導の各内容実施割合

(3) -2 イベント型実習報告会の実施回数と実施内容

イベント型実習報告会を実施していたのは、保育実習指導Ⅰで28校（77.8%）、保育実習指導Ⅲで12校（66.7%）であった。実施回数を多かった順に3つまで挙げる。保育実習指導Ⅰでは、1回（53.6%）2回（32.1%）、3～8回（それぞれ3.6%）の順に多く、保育実習指導Ⅲでは1回（33.3%）、2回～3回（それぞれ16.7%）、4回（8.7%）の順に多かった。

イベント型実習報告会を実施している養成校数をもとに、①その講義への参加者【単独学年、異学年混合、施設種別、外部参加者、その他】である場合、②発表媒体【ポスター発表、スライド発表、レジュメ発表、その他】である場合、③発表者が【個人発表、グループ発表、全員発表、代表者発表、その他】である場合について、それぞれ算出した（図 2-3-2）。

①参加者の選択肢の中では、異年齢混合で実施されることが保育実習指導Ⅰ（67.9%）、保育実習指導Ⅲ（83.3%）ともに多く、施設種別ごとに行われることが保育実習指導Ⅰ（39.3%）と保育実習指導Ⅲ（16.7%）より多く、外部参加者を招くことが保育実習指導Ⅰ（17.9%）より保育実習指導Ⅲ（33.3%）が多かった。②発表の媒体の選択肢の中では、ポスター掲示がおこなわれることが保育実習指導Ⅰ（3.6%）より保育実習指導Ⅲ（16.7%）の方が多く、また、スライド提示によりおこなわれることが保育実習指導Ⅰ（21.4%）より保育実習指導Ⅲ（50.0%）の方が多く、レジュメをもちいることはどちらの実習指導においても約4割であった。③発表者の選択肢の中では、代表者による発表が保育実習指導Ⅰ（53.6%）、保育実習指導Ⅲ（66.7%）ともに多く、グループでの発表は保育実習指導Ⅰ（25.5%）の方が保育実習指導Ⅲ（8.3%）

よりも多かった。

保育実習指導Ⅰと保育実習指導Ⅲでは、保育実習指導Ⅰは施設での初めての実習であり、保育実習指導Ⅲはまとめの実習である可能性が高いことから、発表の形態、発表の媒体、発表者が異なるのだらうと推測される。

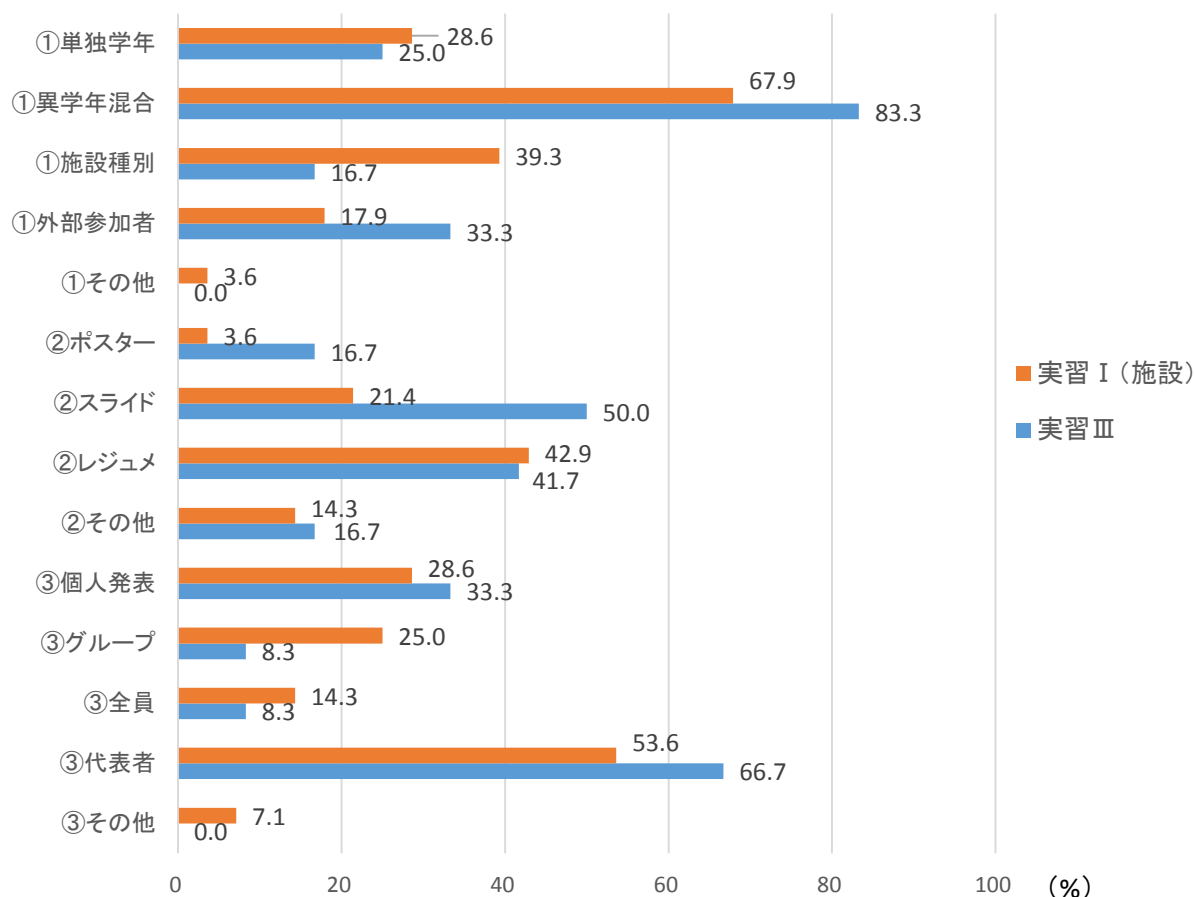


図2-3-2 イベント型実習報告会の各内容実施割合

(3) -3 記録介在型指導の実施回数と実施内容

記録介在型指導を実施していたのは、保育実習指導Ⅰで28校(77.8%)、保育実習Ⅲで13校(72.2%)であった。実施回数を多かった順に3つまで挙げる。保育実習指導Ⅰでは、1回(46.4%)2回(21.4%)、3~4回および9回(それぞれ3.6%)の順に多く、保育実習指導Ⅲでは1回(38.5%)、2回(23.1%)、3回(15.4%)の順に多かった。

記録介在型指導を実施している養成校について、その内容である「レポート作成」、「記録整理」、「チェックシート」、「実習報告会資料作成」、「お礼状」、「その他」の実施割合を算出した(図2-3-3)。レポート作成については、保育実習指導Ⅰ(67.9%)、保育実習Ⅲ(69.2%)ともに7割弱程度、お礼状の作

成については、保育実習指導Ⅰ（64.3%）、保育実習指導Ⅲ（61.5%）ともに6割以上で実施されていた。チェックシートの使用については、保育実習指導Ⅰ（46.4%）の方が保育実習指導Ⅲ（23.1%）よりも実施されており、また、実習報告会資料作成についても保育実習指導Ⅰ（42.9%）の方が保育実習指導Ⅲ（15.4%）よりも実施されていた。記録整理の実施については、保育実習指導Ⅰ（35.7%）よりも保育実習指導Ⅲ（61.5%）の方が実施されていた。レポート作成とお礼状については事後指導の中でも比較的高い割合であり、そして、保育実習指導Ⅰでのチェックシートの使用、保育実習指導Ⅲでの記録整理は、それぞれ特徴的な内容であろう。

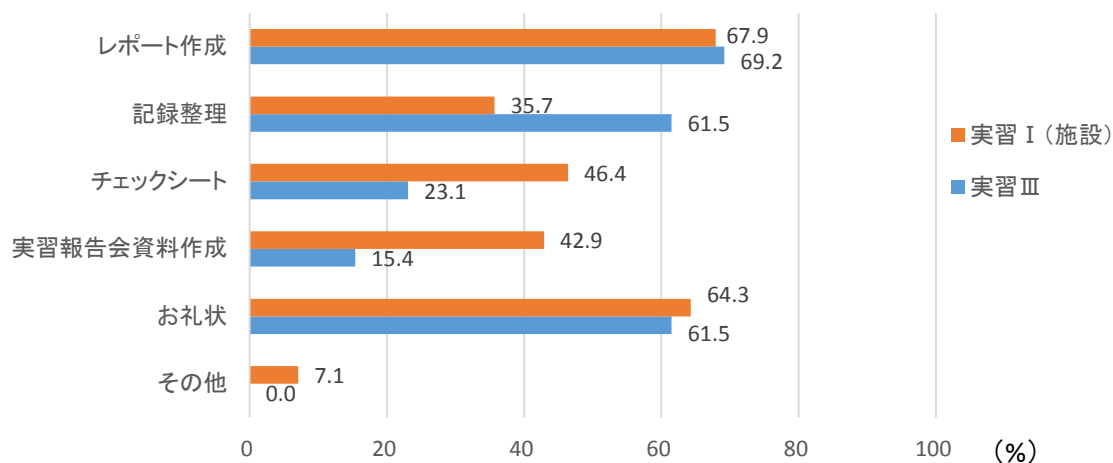


図2-3-3 記録介在型指導の各内容実施割合

(3) -4 グループワーク型指導の実施回数と実施内容

グループワーク型指導を実施していたのは、保育実習指導Ⅰで14校（38.9%）、保育実習指導Ⅲで6校（33.3%）であった。実施回数を多かった順に3つまで挙げる。保育実習指導Ⅰでは、2回（21.4%）、3回（14.3%）、4回（7.1%）の順に多く、保育実習指導Ⅲでは1回・3回（それぞれ33.3%）、2回（16.7%）の順に多かった。

グループワーク型指導を実施している養成校について、その内容である「ディスカッション」、「ワールド・カフェ」、「OST」、「PBL」、「カンファレンス」、「その他」の実施割合を算出した（図2-3-4）。ディスカッションについては、保育実習指導Ⅰ（85.7%）・保育実習指導Ⅲ（83.3%）ともに高い実施率であった。ワールド・カフェは保育実習指導Ⅰ（14.3%）より保育実習指導Ⅲ（33.3%）の方が、また、PBLは保育実習指導Ⅰ（7.1%）より保育実習指導Ⅲ（16.7%）の方が、カンファレンスについても保育実習指導Ⅰ（21.4%）より保育実習指導Ⅲ（33.3%）の方が高い実施率であった。OSTについては、保育実習指導Ⅲ（16.7%）のみで実施されていた。

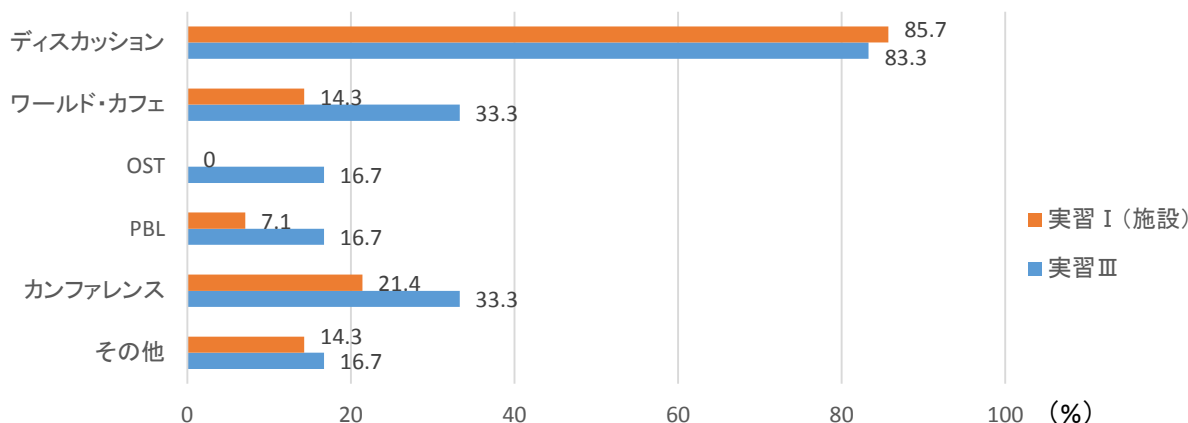


図2-3-4 グループワーク型指導の各内容実施割合

(3) -5 個別面談型指導の実施回数と実施内容

個別面談型指導を実施していたのは、保育実習指導Ⅰで30校(83.3%)、保育実習指導Ⅲで15校(83.3%)であった。実施回数を多かった順に3つまで挙げる。保育実習指導Ⅰでは、1回(35.7%)、4回(14.3%)、2回及び3回(10.7%)の順に多く、保育実習指導Ⅲでは1回(60.0%)、2回・3回・10回(6.7%)の順に多かった。個別面談の実施については、必要に応じて行われるため実施回数の幅が広がったりその他の回答が増えたりしたと考えられる。

個別面談型指導を実施している養成校について、面接担当者が「実習担当者」、「訪問指導担当者」、「その他の教員」である割合を算出した(図2-3-5)。実習担当者が面談を実施する割合は保育実習指導Ⅰ(40.0%)より保育実習指導Ⅲ(66.7%)の方が高く、訪問指導担当者による面談の実施割合は保育実習指導Ⅰ(43.3%)より保育実習指導Ⅲ(40.0%)の方が低く、その他教員による面談の実施割合も保育実習指導Ⅰ(36.7%)より保育実習指導Ⅲ(20.0%)の方が低かった。履修人数の関係で担当者が変わることや保育実習指導Ⅲではより専門的な内容での面談が必要になるために実習担当者の割合が増えると考えられる。

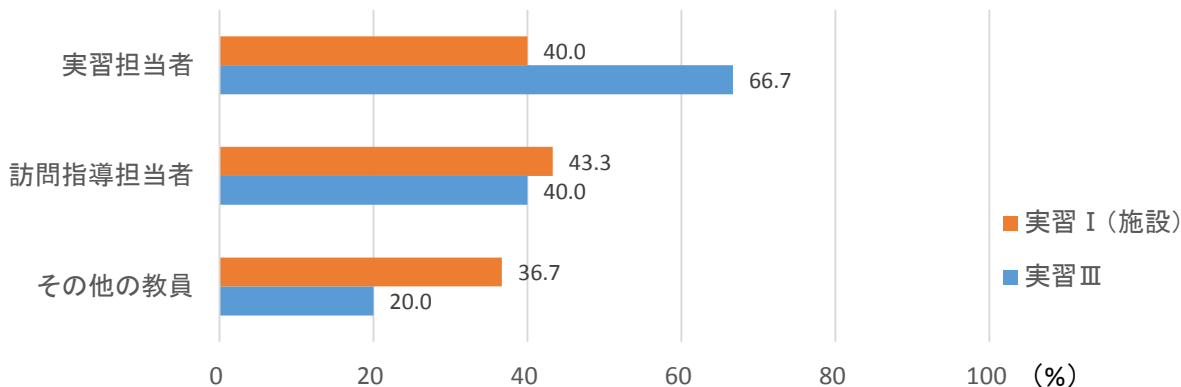


図2-3-5 個別面談型指導の各内容実施割合

(3) -6 外部講師参加型指導の実施回数と実施内容

外部講師参加型指導を実施していたのは、保育実習指導Ⅰで 6 校（16.7%）、保育実習指導Ⅲで 3 校（16.7%）であった。実施回数を多かった順に 3 つまで挙げる。保育実習指導Ⅰでは、1 回（66.7%）、2 回（16.7%）の順に多く、保育実習指導Ⅲでは 1 回（66.7%）が多かった。

外交部講師を招いての事後指導を実施している養成校について、講師として講義をしている人物が「施設長」、「現任保育者」、「その他」である割合を算出した（図 2-3-6）。施設長による講義が、保育実習Ⅰ（50.0%）、保育実習指導Ⅲ（66.7%）ともに多かった。現任保育者による講義は、保育実習指導Ⅰ（16.7%）のみであった。

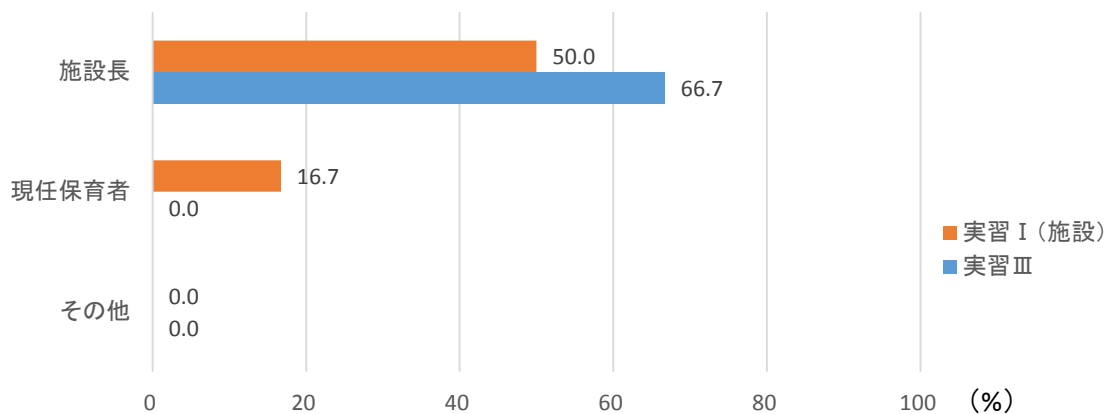


図2-3-6 外部講師参加型指導の各内容実施割合

(3) -7 キャリア支援型指導の実施回数と実施内容

キャリア支援型指導を実施していたのは、保育実習指導Ⅰで 12 校（33.3%）、保育実習指導Ⅲで 6 校（33.3%）であった。実施回数を多かった順に 3 つまで挙げる。保育実習指導Ⅰでは、1 回（66.7%）、2 回及び 7 回（それぞれ 8.3%）の順に多く、保育実習指導Ⅲでは 1 回（50.0%）、3 回（16.7%）の順に多かった。

キャリア支援型指導を実施していた養成校について、その内容である「適性」、「保育士登録」、「その他」である割合を算出した（図 2-3-7）。学生が自らの適性を考えることについては、保育実習指導Ⅰ（33.3%）と、保育実習指導Ⅲ（16.7%）より多かった。保育士登録については、保育実習指導Ⅰ（75.0%）および保育実習指導Ⅲ（83.3%）ともに多かった。その他については、保育実習指導Ⅰ（8.3%）よりも、保育実習指導Ⅲ（16.7%）の方が多かった。その他に含まれる実施内容は、保育士登録や自己分析についての指導、履歴書の書き方指導、就職希望調査等であった。

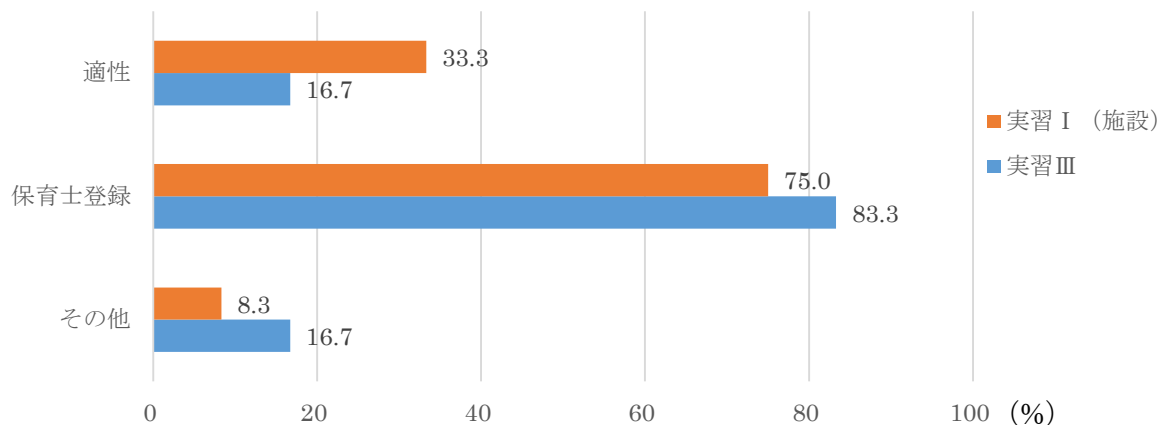


図2-3-7 キャリア支援型指導の各内容実施割合

(4) 実習評価票をどのように学生に見せているか

実習評価票を学生にどのように見せているのか、あるいは見せていないのかについての割合を算出した(図2-4)。学生に提示する場合、その方法として多かったのは、保育実習 I (36.1%)、保育実習 III (33.3%) ともに一人ひとり個別に見せるものであった。また、実習評価票を学生に見せていない養成校は、保育実習 I (61.1%)、保育実習 III (50.0%) と 5 割以上であった。

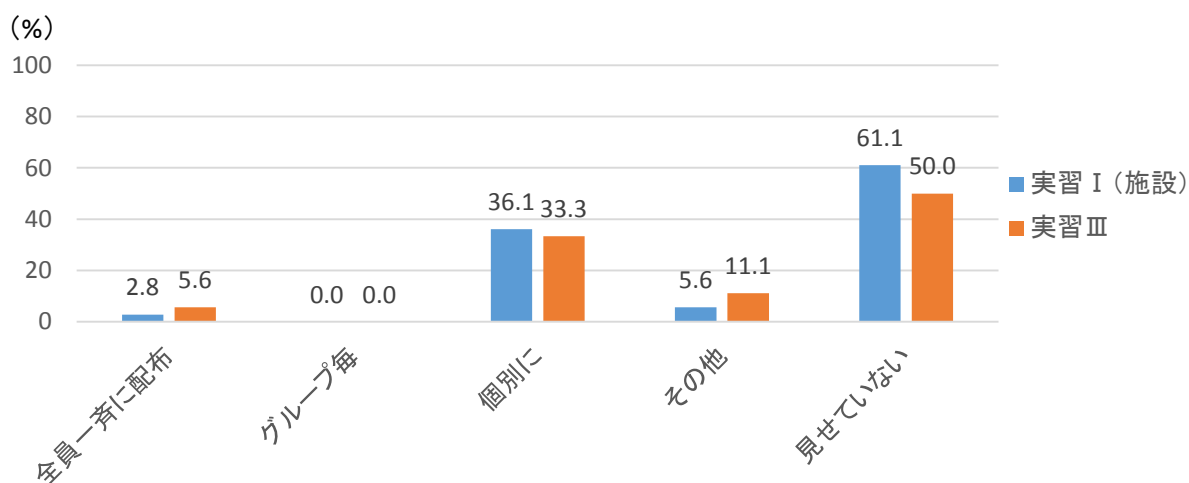


図2-4 実習評価票をどのように学生に見せているか

(5) 保育実習指導の成績は誰がつけているか (図2-5)

実習指導担当者が成績をつけている割合が保育実習指導 I (52.8%)・保育実習 III (44.4%) ともに高く、次いで実習担当者が成績をつけている割合が保育実習指導 I (33.3%)・保育実習指導 III (44.4%) であった。

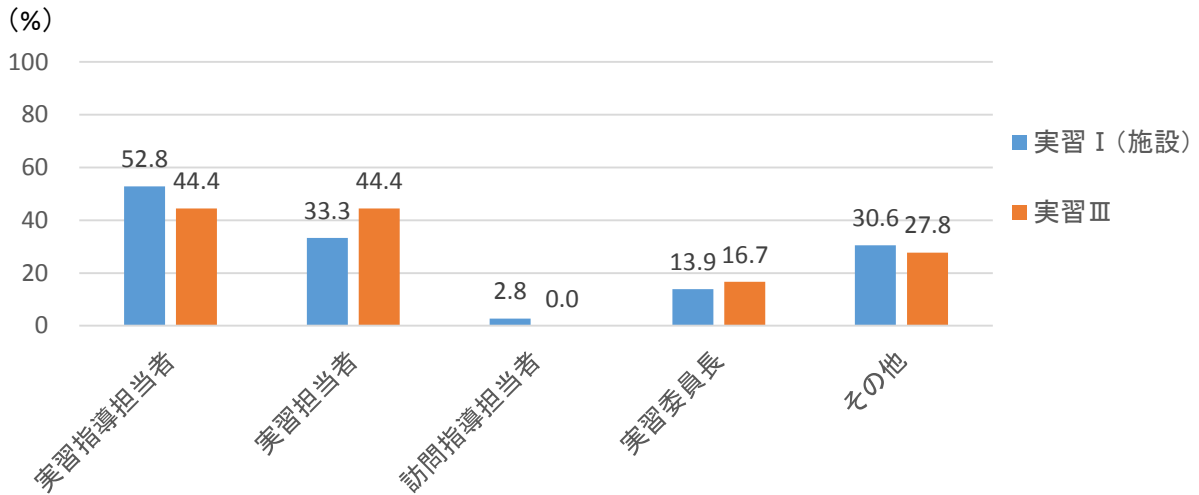


図2-5 保育実習の成績は誰がつけているか

(6) 実習先の成績評価は、どの程度加味するか (図 2-6-1、図 2-6-2)

「ある程度反映」とする回答が保育実習 I (67%)、保育実習 III (56%) とともに多かった。保育実習指導 III を実施している養成校では、「そのまま反映」とする回答が約半数であった。

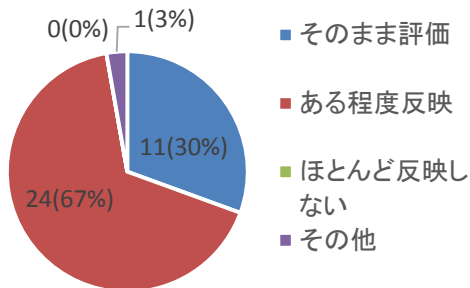


図2-6-1 実習先成績評価は保育実習 I の成績にどの程度加味するか

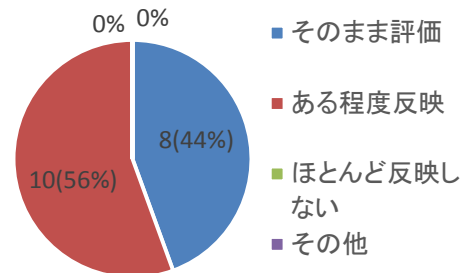


図2-6-2 実習先成績評価を保育実習 III の成績にどの程度加味するか

以上